

ここが聞きたい!

一般質問Q&A

一般質問とは?

議員が、市民の皆さんの生活にかかわる身近な市政の課題に対して質問を行います。

その中から質問および答弁の要旨を1件掲載しています。



行財政

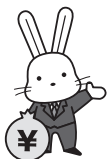
今後の財政運営への



中長期的な影響
渡辺 敏彦

Q 市街地再開発事業と集客施設整備事業による今後の財政運営への影響は。

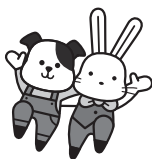
A 福島駅東口地区市街地再開発事業と連携を図りながら進める福島駅前交流・集客拠点施設整備事業は、本市にとって、これまでに例のない大規模事業であり、財政運営に少なからず影響がある。今後、国・県補助金などの財源確保や交付税措置のある有利な市債や基金の積極的な活用により、実質的な市の負担軽減を図り、中長期的に持続可能な財政運営に努める。



ふるさと納税の増収に向けた新たな取り組み
小松 良行

Q ふるさと納税の収入に10億円を見込んでいるが、増収に向けた新たな取り組みは。

A 令和3年度は、寄付金の使用道や実績などを分かりやすく紹介するほか、寄付者のニーズに対応した返礼品の開発、古閑裕而のまち・ふくしまチェンバーオーケストラ創設のクラウドファンディング導入に取り組み。また、シテイセールの推進、本市ゆかりの首都圏在住者との交流会、被災3県朝ドラ連携プロジェクトによる首都圏での情報発信を通じ、本市応援人口の拡大を図る。



くらし・安全

消防団員の確保と



処遇改善
真田 広志

Q 地域防災を担う消防団員の確保に向け、報酬の引き上げなど直ちに処遇改善に努めるべきでは。

A 本市の費用弁償などの額は、交付税単価との開きがある一方、独自の支援を行っている。今後、こうした事情や総務大臣からの要請を

踏まえ、災害対応や訓練、行事の整備など多様な消防団の活動実態に見合った費用弁償などの在り方を検討し、消防団の担い手を継続的に確保できるよう処遇改善策を速やかに検討する。



災害時のペットの避難
二階堂 利枝

Q 災害時の犬や猫などのペットの避難に関する取り組みは。

A 現在、指定避難所への同行避難を可能としており、一部の避難所ではペット専用のスペースを設け、ペットと飼い主が安心して避難できる環境整備を進めている。今後、指定避難所内のペット専用スペースの拡充に努め、民間団体などの協力による適正な運営が可能となるように、ペット同伴者専用の避難所の在り方も検討する。



小中学校に開設する
避難所へのエアコン設置
山田 裕

Q 避難所に指定されている小中学校の体育館が過酷な環境とならないためにも、エアコンの設置が必要では。

A 小中学校を避難所として開設する場合、多くの市民を受け入れられる体育館内に避難していただく準備をしている。避難者の健康に配慮する観点から、エアコンが設置されている教室の利活用が必要な場合には各学校と調整し、適切に対応する。



産業・経済

5GでのVRなどを



活用した農業の取り組み
根本 雅昭

Q 農業における、VRなどを用いた後継者育成やドローンによるリモートセンシング(注1)など、5G(注2)を活用した施策は。

A 自動トラクターなどの遠隔制御による複数台数の同時操作やリモートセンシングで得たデータなどを活用した適切な肥料散布、AIを活用した病害虫被害の早期診断と精度向上、VRによる技術継承などに5Gの活用が考えられる。これらの技術の実用化は、今後の農業の持続的発展に寄与するものであり、(仮称)福島市スマート農業検討会において検討する。





雇用を守る施策

川又 康彦

Q 雇用を守る施策が経済対策として重要であり、社会保険料の事業者負担分を助成する制度が必要では。

A 社会保険料は、地域の医療費の状況や社会保障の給付水準などに応じ決定される。市が助成を行うには多額の費用を要することになるため、国や健康保険組合などにおいて検討すべきと考える。



環境・ごみ



果樹剪定枝の焼却

鈴木 正実

Q 本市はゼロカーボンシティを推進するとしているが、果樹剪定枝の焼却に関する今後の対応は。

A 剪定枝が多量に発生している現状を理解していただく取り組みだけではなく、焼却によらない抜本的な果樹剪定枝の適正処理への転換を検討する。具体的にはチップ化によるほ場への還元、防霜対策時の燃焼材としての活用や家庭用薪ストーブへの活用促進など、焼却処理

する剪定枝の量の削減に努める。農業生産者への過重負担による就農意欲の減退を招かないように農業振興と環境保全のバランスを考えた取り組みの推進が重要である。



福祉・健康

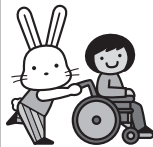


ケアラーに対する支援

丹治 誠

Q 自ら支援を求めることができないうケアラー（注3）に対して、アウトリーチ型での支援をすべきでは。

A 令和3年度は、地域住民が抱える複雑で複合的な課題の解決に向け、包括的な支援体制の整備をモデル事業として実施する。この中で、必要な支援が届いていない方への継続的な支援事業や社会とのつながりをつくる地域参加支援事業に取り組み、寄り添い、支援できる体制を構築する。



甲状腺検査の継続

佐原 真紀

Q 甲状腺がんの早期発見・早期治療のため、学校検査の継続を県に求めるべきでは。

A 県は、甲状腺検査のあり方について、検査対象者への聞き取りや県民健康調査検討委員会の判断で、今後も継続的に実施するとしている。市は、学校検査の継続を念頭に、検査会場の確保や広報活動などに協力する。



まちづくり

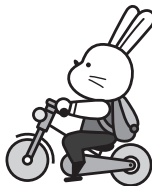


ももりんレンタサイクルの具体的な計画

小熊 省三

Q シェアサイクルへの移行後も、ももりんレンタサイクルの一部を一定期間残すとのことだが、具体的な今後の計画は。

A ももりんレンタサイクルは、利用者がシェアサイクルの使い方に慣れるまでの暫定措置として東口貸出所に10台程度を残して、順次台数を減らしていく。



（仮称）道の駅ふくしまと屋内こども遊び場の施設整備

羽田 房男

Q 他市の施設との差別化を図るため、どのような施設整備を目指すのか。

A おおぞうインターネットエンジンに隣接し交通の利便性が高いことから、県内外から多くの利用者が見込まれる。建屋は、県産材を活用した木造構造で、温かみと明るく開放的な作りが特徴である。さらに、近接する十六沼公園の各種子ども遊び場と合わせ、天候や気温に応じた利用が可能であり、子どもが思う存分に体を動かす、創造性を育める施設を目指す。



（注1）リモートセンシング：遠隔からセンサーを使って感知することやその手法・技法・技術のことであり、人工衛星や航空機などから地球の表面付近を観測する技術を指すことが多い。

（注2）5G：第5世代移動通信システム（5th Generation）の略称で、これまでと比較し、次の特徴が挙げられる。

- ①高速で大きな容量の通信ができること
- ②信頼性が高く低遅延の通信ができること
- ③多数の機器に同時に接続ができること

（注3）ケアラー：高齢、身体上、精神上の障がいまたは疾病などにより援助を必要とする親族、友人その他の身近な人に対して、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を行っている人のこと。